

事業名 平成28年度文部科学省委託事業（青少年教育施設を活用した国際交流事業）
「タイ王国高校生相互交流事業」

1 事業の必要性

近年、国際化が進展する中、アジアの玄関口である福岡に多くの外国人が訪れている。学校教育の場においては、高等学校や大学への海外からの留学生の受入とともに、海外への留学や修学旅行など、積極的な国際交流が図られているところである。

このように国際化が進展する中、青少年自らが国際社会の一員であることを自覚し、異なる文化や歴史に立脚する人々と共生していくことが必要になってきている。

そこで、タイ王国の青少年を日本に招き、当施設を中核に、周辺の高等学校・大学、文化・スポーツ施設等関係機関と連携し、地域の特性を生かした自然体験・スポーツ体験・文化体験等の機会を提供すること、さらに、日本の青少年をタイ王国に派遣し、相互交流を行うことは、日本に対する理解の増進を図るとともに、招いたタイ王国の青少年との国際交流体験を通じて、日本の青少年の国際的視野を醸成し、東アジアの中核を担う次世代リーダーを養成することにつながるため、大変意義深いことと考える。

2 趣 旨

地域の高等学校・大学・中学校や文化施設等と連携し、学校の特色を活かした学校訪問による交流授業や、地域の特性を活かした文化体験等の機会を提供することで、日本・タイ王国両国の次世代リーダーを育成する。

3 事業の特色

- 昨年度、交流プログラム実行委員を務めた生徒を中心に、5つの高等学校から選抜された日本の高校生計15名を対象とした事前学習会を行い、タイ王国へ派遣する。その後、タイ王国高校生20名の招聘時には、派遣した日本の高校生15名は、招聘時の交流プログラム実行委員会（学校訪問・ホームステイ対応）の中心メンバーとなる。また、5つの高等学校からの計10名の実行委員で総合実行委員会を組織し、交流プログラムについて意見交換や企画・準備をしていくことで日本人リーダーとしての資質の向上を図る。その後、5つの高等学校の実行委員が集う事業評価会を実施する。このようなサイクルを通して目標のリーダー像を目指していく。
- 日本の高校生をタイ王国に派遣し、高校訪問やホームステイをしながらタイ語、タイ文化を実際に体験する。ホームステイ後もタイのホームステイ受入生徒が同行し、一緒に活動することで、語学力、コミュニケーション能力、異国文化理解の向上を図る。また、日本から進出している企業や在タイ日本大使館を訪問することで、日本の高校生に対して国際的視野の醸成を図る。
- タイ王国の高校生の日本に対する理解を促進させるために、日本の高校生宅にホームステイを実施することで、日本の伝統文化・生活様式等を理解させる。また、ホームステイ先から高等学校を訪問し、学校生活体験や意見交換するプログラムを実施することで日本語能力の向上も図る。これらのプログラムは、日本の高校生にとってもタイ王国の生活様式や生活実態を知ることにつながり、グローバルな視野を持たせ、東アジアにおける日本の役割について考えることにもつながる。
- 両国の高校生は、派遣事業プログラムや招聘事業プログラムを通して、日本とタイ王国の文化の共通点や相違点、そこから見いだした新たな発見など、この事業から学んだことを発表する機会として、事業評価会を設ける。

4 期間

＜派遣＞ 平成28年 7月31日（日）～8月7日（日）7泊 8日
（派遣事前学習会）

- ・ 第1回 平成28年 7月 2日（土）～ 3日（日）1泊2日
- ・ 第2回 平成27年 7月 9日（土）～10日（日）1泊2日

<招聘> 平成28年10月14日（金）～23日（日）9泊10日

（総合実行委員会）

・第1回 平成28年 9月24日（土）

・第2回 平成28年11月 4日（土）

5 企画・運営のポイント

- 本事業に関わる機関の長（各高等学校長、国立博物館副館長等）による企画委員会を組織し、本事業におけるより教育効果の高い交流プログラムの企画・立案や事業の評価を行う。

<派遣>

- 派遣事業プログラムの事前打ち合せでは、全体の行程・通訳等に関することは旅行会社、学校訪問・ホームステイに関することは日タイ青少年交流クラブ（以下、TJYECと表記）とタイの協力校であるサラウィッタヤスクールと連携し、両国の高校生の文化体験、交流体験を十分確保したプログラムづくりを行う。
- 派遣事業の事前学習会では、タイ国政府観光庁職員やタイ人留学生、前年度の派遣者にも参加してもらい、タイ王国の文化学習や交流活動の準備に関わりながら、今年度の派遣者に対して、自分の経験に基づく話をしたり、アドバイスをしたりする。

<招聘>

- 招聘事業前にも、タイの招聘生徒へ直接指導することと引率者と具体的な内容について打合せをする時間を確保するため、タイで行われる事前キャンプに当施設スタッフも参加する。
- 各高等学校の実行委員の代表が一同に会して行う総合実行委員会を組織し、招聘時の交流プログラムについて意見交換し、企画・運営に反映させる。
- 各高等学校の交流プログラム実行委員会に当施設スタッフが出向き、交流プログラムの企画・準備段階から、担当教諭とともに指導・支援することにより、次世代リーダーとして必要な資質や能力の伸長を図る。
- 招聘事業プログラムでは、ホストファミリーと過ごす時間を多く確保するために対面式を日曜日の午前中に行う。また、タイの高校生と共に、ホームステイを受入れる日本の高校生も当施設に宿泊し、学校紹介やディスカッション、野外活動を行い、学校訪問やホームステイ以外での交流機会を充実させ、同世代交流をさらに深めていく。
- 地域の中学校も訪問し、異世代交流の機会を設ける。
- 招聘事業プログラムには、地域社会に貢献している企業の訪問を取り入れ、日本企業に対する関心や理解をさらに深める。
- 事業評価会は、タイの高校生による学校訪問発表会・文化体験発表会に、日本の高校生による派遣事業発表会を加えた3部構成とし、様々な体験をとおして単に見たり聞いたり感じたりしたことを発表させるだけでなく、学んだことを将来的にどう活かしていきたいのかを発表させることで次世代リーダーの育成を図る。

6 成果

<派遣>

- 派遣事業の事前学習会において、当施設スタッフの講話により“次世代リーダーを目指そう”という趣旨をきちんと理解し、タイ政府観光庁職員やタイ人留学生、前年度の派遣者からいろいろな話を聞いたり、アドバイスを受けていたりすることで、「グローバル化する国際社会の中で、日本の歴史・文化を知り、伝える。また、世界を自分の目で見て、耳で聞き、肌で感じて、語る」というはっきりした目的を持つことができた。
- 派遣後の個人レポートには「タイのみんなと言葉にできないくらいの楽しい思い出ができ、友情を感じることができたので、行って良かったと思うし、参加させてもらったことの感謝の気持ちでいっぱいです。」「あっという間に時間は過ぎてしまい、最後空港でのホスト生徒との別れはとても辛かったですが、そうなる程まで仲良くなれて良かったです。」との記載があった。派遣でのホームステイはわずか2泊であったが、その後も3日間、タイのホームステイ受入生徒が同行したことでふれ合う機会が増え、生徒間の交流・絆が深まった。派遣事業後もSNS等で連絡を取り合うなど、生徒間の交流が継続している。

- アユタヤ遺跡やバンコク市内の寺院等を見学したり、サイアム・ニラミットで歴史劇を鑑賞したりすることで、日本の高校生がタイ文化を知ることと併せ、日タイ両国の文化紹介・学校紹介をしたり、ダンスや踊りを披露し合ったり等の活動で互いに語り合い、ふれ合いながら、交流して学ぶことの大切さを両国の高校生に実感させることができた。日本の高校生は一日のふり返りで、しおりに「タイの高校生は積極的に話しかけてきてくれ、交流に対しての不安は消えました。なので、タイの高校生に日本の文化や良さを十分に伝えられるように、私も積極的に話して、楽しみながら異文化を学ぼうと思います。」との感想を書き記していた。
- タイの高校生と一緒に活動していく中で、日本の高校生は、タイの高校生の快活さや積極性、コミュニケーション能力の高さを感じ、感想では「積極的にコミュニケーションをとるということをタイ生徒から学び、もっと自分から行動しなければと強く思った。」「みんなと過ごしていくうちにタイの人たちともうまくコミュニケーションがとれるようになりました。この研修で培ったコミュニケーション能力が無駄にならないように磨きをかけ、これからの学校生活だけでなく、国際的な社会に貢献できるような人になりたいと思います。」との感想を持ち、今後の生活や自分の将来に生かしていこうとする意欲を持つことができた。
- 在タイ日本国大使館を訪問することで、日本とタイの交易や日本大使館の役割について知ることができた。また、一等書記官の講話や地元福岡からタイへ進出している日本企業の社長による企業説明を聞いて、英語の大切さを再認識することができた。日本の高校生の帰国後のレポートには「話を聞いて、そんなに難しく考えずに相手に伝わるくらいでいいと知りました。それから、英語に対して難しさをあまり感じなくなり、今では英語の授業が楽しくなりました。将来、英語で外国人とコミュニケーションがとれるように勉強していきたいと思いました。」との記述があり、英語学習に前向きに取り組んでいることがわかる。
- タイへ進出している日本企業を訪問し、企業説明や大洪水の時の話を聞くことで、「海外で働く場合の苦労や努力、仕事に対する情熱や愛を知ることができた。この体験から国境を越えて世界で活躍するこのような仕事もあるのだと、自分の進路の選択肢を増やすこともできました。」と将来、海外で働くのもありだと考えている生徒もいる。

<招聘>

- 各高等学校の交流プログラム実行委員会に当施設スタッフが出向き、交流プログラムの企画・準備段階から指導・支援したり、総合実行委員会を開催して、交流プログラムについて浮羽・朝倉地区の5高等学校が意見交換をしたりすることで、各高等学校の特徴を生かしたプログラムや実行委員会が企画したプログラムを準備することができた。その結果、タイの高校生の学校訪問への関心が高まり、高い満足度を得ることができた。
- 受け入れた高等学校の生徒は、タイの高校生が短期間で日本語を話すことが出来るようになっていく姿や、何事にも積極的で、誰に対しても友好的な姿から、自分たちの学習意欲やコミュニケーション能力が不十分であることに気づかされていた。「英語でのコミュニケーション能力を高め、将来外国の人と話すことができるようになりたい。」「今回のような交流イベントに参加してみて、いろいろな人と関わり、自分から進んで話しかけたい。」と今後の意欲をもつことができていた。
- 当施設のスタッフが、タイの招聘生徒対象の現地事前キャンプに参加し、事業の趣旨や、日本での生活の仕方について説明したことで、日本の様式に合わせた生活態度でホームステイ期間を過ごすことができ、ホストファミリーには驚かれるとともに大変喜んでいただけた。日本語によるコミュニケーションもスムーズにできて絆も深まり、涙ながらに「ホームステイに申し込んでよかった。」と伝えてこられた保護者の方がいらっしやったり、お別れ夕食パーティーや空港の見送りに多くの人が訪れ、別れを惜しむ姿が見られたりした。当施設独自のホストファミリーアンケートによると、全ての保護者から「ホームステイは有意義だった」との回答があり、95%の保護者は「機会があれば、また来年もホームステイを受け入れたい」とホームステイに対し高い評価を得ることができた。
- 九州大学の留学生との交流では、タイの高校生が留学生に、日本の大学に留学する手続きや日本での生活の様子などを、目を輝かせながら質問する姿が見られ、留学生から生の声を聞くことができた。その後、ほとんどのタイの高校生が日本への留学や日本企業への就職など将来の夢を口にしていた。

- 青少年教育施設を活用して集団で生活することにより、タイの高校生は、あいさつ・礼儀や食事のマナー、入浴方法など、日本の生活習慣や生活上のルール、公共マナーなどを学ぶことができた。また、ホームステイを受け入れた日本の高校生と青少年教育施設に宿泊し、お互いの国の文化の違いについて意見交換をしたり、ニュースポーツや餅つき体験などの活動と一緒に参加したりすることで、日本とタイの両国の高校生が、より一層互いの国を理解し合い、友情を深めることができた。
- タイ側からの「現在、タイの環境悪化が問題になっているので、日本の環境保全の取り組みを学ばせたい。」という意見と、「キリンビール工場が地域社会貢献のために解放しているコスモス畑を生徒に見せたい。」という要望から、産業学習と環境学習の一環として、キリンビール工場見学及びその周りのコスモス畑の散策を招聘プログラムに組み入れた。タイ側の意見も可能な限り取り入れた招聘プログラムを構築することは昨年度からの課題で、タイの青少年次世代リーダーの育成という観点から、社会貢献や環境問題について考えることができるプログラムとなり、タイの高校生や引率者から高い満足度を得ることができ、課題解決にもつながった。
- 日本の高校生は、タイの高校生と交流することで、相手国の文化や考え方を尊重することや、異文化理解のためには自国の文化を理解することの重要性に気づき、国際社会に対応していこうとする意欲を高めることができた。日本の高校生は、「今回は、文化も言語も宗教も違う人との交流で、最初は戸惑ったけれど、仲良くなることができました。外国の人の生活や良さがわかったので、外国の人に積極的に話しかけたり、困っている人を助けたりしたいです。」「言葉や文化が違って、仲良くなることができた。たくさんの国の人と交流して、日本や他の国がもっと仲良くなってほしい。今回の経験から、積極性を持ち、国際貢献につなげていきたい。若い人達から世界平和をつくってきたい。」「日本の文化や歴史、日本人のいいところを知り、今度は自分が外国に行き、日本の良さや文化を教えたり、他の国の歴史や文化を学んだりしたい。日本人には当たり前の文化や歴史も、外国の人からは一目おかれるものだった。日本を誇れるものにしていきたい。」という感想を述べ、今後の進路や将来の夢を真剣に考えていこうとする契機となった。

7 課 題

- 各高等学校の事務担当教諭に、本事業の概要や流れ、連絡・調整内容がきちんと伝わっていなかったり、各校での準備や該当する生徒への連絡が遅れたりする場合があった。第1回事務担当者会の時期を早め、第1回企画委員会の後すぐに開催して、本事業の趣旨や概要について各校と共通理解を図り、年間スケジュール等の打合せ・確認を行うなど、会合の時期や内容を見直す必要がある。
- 日本の派遣生徒の決定が遅れたことで、パスポート取得やタイでのホームステイ受入先の決定も遅れる結果となった。その原因は、第1回目の企画委員会開催が6月下旬となって、派遣事業まで5週間という短い期間しかなかったためである。タイの協力校サラウィッタヤスクールやT J Y E C、各高等学校等、関係機関に対して時間的な迷惑をかけることなく、本事業をスムーズに進めるためにも、委託締結日がもっと早まり、第1回目の企画委員会開催もさらに早めることが望ましい。
- タイの招聘生徒決定を8月下旬、引率者決定が9月下旬となったため、タイでのパスポートの申請、航空チケット発券のための旅行社へのパスポートナンバーと名前の連絡等をわずかな日数で行うこととなった。T J Y E Cの先生方の協力のおかげで短期間での集約ができたが、日本のホストファミリーとタイ生徒とのマッチングが遅くなってしまった。タイ側は招聘生徒の選考試験と事前キャンプ、日本側では招聘プログラムの決定と航空チケット発券の日程調整、ホームステイ先の決定・連絡等、タイと日本のお互いのスケジュール調整・管理が課題である。
- 招聘プログラムのスケジュールに余裕が無く、限られた時間で事業評価会の準備を行ったため、タイの高校生からは、「忙しかったので、ゆっくりする時間がほしかった。」との意見が出た。事業評価会での発表の内容は、多くの参加者から高評価を受けたので、事業評価会に向けての準備をしながらも、時間的な余裕をもって過ごせるように、また、当施設を利用している他団体の方々と交流する機会を増やすなど、プログラムを工夫して企画し、柔軟に運営することが課題である。

プログラム・日程

<派遣>

- 7月31日(日) 福岡国際空港より出国、バンコク スワンナプーム国際空港より入国
文化学習(サイアムニラミット)
- 8月1日(月) 歴史学習(バンパイン宮殿、アユタヤ遺跡)
企業訪問(ローム・インテクレイテッド・システムズ)
- 8月2日(火) 文化学習(エメラルド寺院、王宮、ワット・アルン、ワット・ポー)
学校訪問(サラウィッタヤスクール) タイ語講座、スポーツ交流等
ホストファミリーとの対面式、ホームステイ1泊目
- 8月3日(水) 学校訪問(サラウィッタヤスクール) 歓迎式、授業体験、意見交換等
ホームステイ2泊目
- 8月4日(木) 学校訪問(サラウィッタヤスクール) 文化交流会
ホストの生徒と一緒に日本国大使館表敬訪問後、ラチャブリーへ移動、
T J Y E C 1 泊目
- 8月5日(金) 文化交流(カレン族の小学校)、文化体験(ボークルン温泉)、
ホスト生徒とのお別れパーティー、T J Y E C 2 泊目
- 8月6日(土) 文化体験(ダムヌン・サドゥアク水上マーケット)(メークロン線路市場)
バンコクへ移動、ホスト生徒とお別れ、買い物体験(免税店、タイショップ)
スワンナプーム国際空港より出国
- 8月7日(日) 福岡国際空港より入国、解散

<招聘>

- 10月14日(金) 福岡国際空港より入国、福岡県教育委員会表敬訪問、
学校訪問(九州大学で留学生と交流)、歓迎の集い、オリエンテーション
- 10月15日(土) 日本文化理解(九州国立博物館で歴史学習、太宰府天満宮にて文化学習、
戒壇院にて座禅体験)
- 10月16日(日) ホストファミリーとの対面式、ホームステイ1泊目
- 10月17日(月) 学校訪問(福岡県立高等学校5校に分かれて訪問)
授業体験、意見交換等、ホームステイ2泊目
- 10月18日(火) 学校訪問(福岡県立高等学校5校)、授業体験、意見交換等、
ホームステイ3泊目
- 10月19日(水) 学校訪問(福岡県立高等学校5校)、授業体験、意見交換等
- 10月20日(木) 筑前町表敬訪問、夜須中学校訪問、買い物体験(ショッピング)
環境学習(キリンビール工場コスモス畑見学)
- 10月21日(金) 工場見学(トヨタ自動車九州工場)
ホストファミリー高校生との意見交流会(当施設に宿泊)
- 10月22日(土) ホストファミリー高校生との交流(ニュースポーツ体験、餅つき体験)
事業評価会、ホストファミリーとのお別れパーティー
- 10月25日(日) 福岡国際空港より出国

活動の様子

<派遣>



【アユタヤ遺跡】



【企業訪問】



【学校訪問】



【カレン族との交流】



【水上マーケット】



【お別れパーティー】

<招聘>



【福岡県庁表敬訪問】



【座禅体験】



【学校訪問】



【トヨタ自動車工場見学】



【もちつき体験】



【お別れ夕食パーティー】

○参加実績：派遣（日本）高校生15名、招聘（タイ）高校生20名、〔タイ引率者3名〕、日本の各高等学校における実行委員の総計50名

○参加者の感想

<派遣（日本）高校生>

- ・ タイの高校生の語学力と勉強熱心なところに驚きました。タイの高校生は、日本語もできるし英語もできるので、私も負けなようにもっと頑張ろうという気持ちになりました。
- ・ 私は人前で話したりすることが得意なほうではありませんでしたが、この派遣事業を通して自分に自信をつけることができたと感じています。私もタイ人の積極性を見習い、委員会活動や学校行事などで活躍できる人間になりたいです。
- ・ 今回の派遣事業を通して日本人と海外の人の考え方の違いを知り、そしてたくさんの友達をつくることができ良かったです。今回の派遣事業で良い思い出ができたということだけでなく、今回学んだことをこれからの生活、将来の進路選択に生かしていきたいです。また、10月には招聘事業があるので、そこでも今回学んだことや経験を生かしていきたいです。
- ・ 初めての場所を訪れ、初めての体験をたくさんし、初めての人にたくさん出会い、初めての事をたくさん学びました。私は、この派遣事業をしっかりと自分のものにして将来へ繋げていきたいと思います。
- ・ この交流事業で、他の国の人と関わることの楽しさや自分から積極的に動けば新しいことを学べることなどが分かり、自分にとっていい経験になりました。驚くことがたくさんあり、これから外国にまた行ってみたいと思いました。
- ・ 日本大使館では一等書記官の講話をうけました。将来のためにも英語は絶対に勉強したほうがいいと言われていたので、苦手な英語を克服したいと思ったし、将来のことについて考えることができるいい機会になりました。

- ・ それまでなんとなくでしか分からなかったタイの料理や文化を知ることができました。タイの料理はただ辛いだけでなく、辛さの中に酸っぱさが効いていたり、肉食より外食の方が安くついたりなど、タイに来て初めて気づいたことの他に、辛いタイ料理をタイ人が好んで食べる理由など、この派遣事業に参加しなければ調べもしなかったことなどを数多く知ることができました。
- ・ 空港では見送れるところの最後まで来てくれて、別れるのがどんどん嫌になっていきました。タイのみんなと離れるのも嫌だけど、タイを離れるのも嫌になっていました。でも最後にはその気持ちをこらえて手を振ってしっかりとお別れをしました。飛行機に乗るまでも、乗っている時も、思い出に浸りながら、ぼーっとしていました。
- ・ 今回出会った人たちにはもう二度と会えないかもしれない。だけど、不思議と悲しみはなく、いつかまた会えると思っている。これもまた将来に向けての一つの目標となった。

<招聘（タイ）高校生>

- ・ 日本の生活と文化についていろいろ知ることができました。もっと日本語が上手になりたいので勉強を頑張りたいと思います。
- ・ 日本人はルールを守る人だと思います。ゴミを分けたり、道にごみが少なくてきれいでした。工場のまわりに花畑があって驚きました。
- ・ 日本人は時間を守ります。時間を守ることが大切なことだと学びました。
- ・ 日本人はとても優しく親切でした。いつも笑顔です。でも、仕事をするときや、勉強をするときは真面目で一生懸命です。
- ・ 将来、日本の大学に行って勉強したいです。そのために、この経験を生かして、一生懸命勉強します。

<日本の実行委員の高校生>

- ・ 総合実行委員会では、他校の生徒と話し合いを行うことで、どのようなことをしているのか、自分の高校の特色ある活動は何なのかを確認することができた。他校の人と交流を深めながら進めていくことができたのでよかった。
- ・ 日本とタイの高校生活について話し合い、授業の様子や日本の高校生に流行っているアニメの話などで盛り上がることもできた。会話がスムーズに進まず、文字にふりがなをふって説明したこともあったが、すぐに仲良くなることができた。言葉だけではなく、表情やジェスチャーでも言いたいことが伝わった。
- ・ 学校訪問期間が3日間だったので出来ることは限られていたが、その中でも日本の文化を感じてもらえたり、日本の学校生活についてもわかってもらえたりしたと思う。自分たちの学校の特色を生かすことができた。
- ・ 海外の様々な国の歴史や文化を知ること、日本の歴史や文化を大切にすることができると思った。これからも、日本特有の文化を大切にしていきたい。
- ・ タイの高校生と会って、コミュニケーション能力の高さに驚いた。自分もコミュニケーション能力を磨いて、誰とでも話せるようになりたい。グローバル化する社会の中で、英語が大切になると思うので、英語の勉強を頑張りたい。
- ・ 今度は、自分がタイに行って日本の学校生活や、日本の文化について伝えたい。他にも外国との交流機会があれば積極的に参加したい。
- ・ 今回出会ったタイの高校生とは、ずっと友達でいたいと思っています。